

4-2 協働推進基本方針に基づく主な協働の取組成果

基本構想の実現のためには、区と区民とが地域の活動やそれを担う人材を育み、地域の力を高め、支えあい、共につくる地域社会を築いていくこと、すなわち「参加と協働による地域社会づくり」が必要です。

そこで、区は協働推進基本方針を定め、次の3つの方針を柱に取組を進めています。

方針1 区民参加の促進

～区民参加による地域社会づくり～

方針2 地域人材の育成と地域活動環境の充実に向けた支援

～多様な主体の協働による地域の公共的な課題の解決～

方針3 協働を支える情報発信と、区と区民とのコミュニケーション充実

～参加と協働を支える区民とのコミュニケーションの充実～

平成 27 年度は、上記方針に基づき、区と区民や地域団体が連携・協力することで地域課題を解決する取組や地域で活躍する人材育成を進めたほか、地域活動の支援にも力を入れて取り組みました。

協働推進基本方針に基づく、各取組項目の成果は次頁以降のとおりです。

方針1 区民参加の促進

(1) ボランティアとの連携による地域課題の解決

	項目名	主な取組内容
1	防犯対策の推進	<p>地域団体、区民、警察署等関係団体と区が協力し、落書き消去活動や区境パトロール、振り込め詐欺根絶キャンペーンを実施しました。</p> <p>警察との連携強化や、防犯自主団体によるパトロール活動等による成果が表れ、刑法犯認知件数は、戦後最多であった平成14年以降、初めて5,000件を下回り、最少件数に留めることができました。</p>
2	消費生活サポーターによる「出前講座」の実施	<p>高齢者施設や町会等からの依頼に応じて、講習を受けた消費生活サポーターが「悪質商法から身を守る」というテーマで、寸劇や簡単な心理チェック、電話対応の実践等を取り入れた「出前講座」を実施しました。PR活動の効果で計画回数以上実施でき(31回)、高齢者等へ悪質商法の実態を周知し、消費者被害の防止に役立てることができました。</p>
3	水鳥一斉調査の実施	<p>善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業の一環として、1月に善福寺公園・善福寺川緑地・和田堀公園の3か所において、小学生など区民228人の参加による水鳥一斉調査を実施しました。</p> <p>水鳥一斉調査の参加者は年々増加しており、調査結果を広く区民に提供することで、川への関心を高めることができました。</p>
4	自転車放置防止協力員の活動	<p>区と駅周辺の地域住民が連携を図り、随時、自転車の放置防止の指導、PR、啓発活動を行いました。また、10月には駅前放置自転車クリーンキャンペーンを阿佐ヶ谷駅ほか6駅で実施し、放置防止協力員81人の参加がありました。</p> <p>放置防止協力員は、町会1団体の加入により54団体415人となりました。協力員の活動により、放置自転車が減少し交通環境が良好になりました。</p>
5	花咲かせ隊の活動	<p>地域の住民が、ボランティア団体「花咲かせ隊」(134団体)として、身近な公園の花壇等を管理することにより、緑化・美化に対する意識を醸成するとともに、公園の利用拡大や地域活動の活性化を図りました。</p>
6	すぎなみ公園育て組の活動	<p>地域の住民が、ボランティア団体「すぎなみ公園育て組」(43団体)として、身近な公園で清掃や植栽の手入れ等の活動を自主的・主体的に行うことにより、地域の連帯感を高めるとともに、公園利用者に公園への親しみを持ってもらうことや利用モラルを意識付けることにつなげました。</p>

7	みどりの保全に向けたボランティア活動	<p>「みどりのボランティア杉並」や区が認定したボランティア団体等が、公園・緑地・いこいの森等の維持管理、学校・保育園等の公共施設や民間施設での緑化活動及び「みどりのイベント」「落ち葉感謝祭」「炭焼き体験塾」等を行いました。</p> <p>活動の範囲が広がったことにより、みどりの保全に対する区民の関心や意識の高まりや、きめ細かな管理につながりました。</p>
8	阿佐ヶ谷駅南口広場、高円寺駅北口・南口広場等における清掃への協力	<p>J R阿佐ヶ谷駅前広場及び高円寺駅前広場を地域ボランティアが清掃しました。</p> <p>区で行う清掃と合わせ、きれいな駅前広場を維持しました。</p>
9	違反広告物の除却活動	<p>区に登録した除却協力員（平成27年度末1,166人）と区が協働で、屋外広告物法（東京都屋外広告物条例を含む）に基づく違反広告物の除却を行いました。（年間除却枚数計12,433枚）</p> <p>地域住民による除却は、区単独で行うよりもきめ細かく行っているため、常にまちの美化を保つだけでなく、防犯の観点からも効果をあげました。</p>
10	道路保全への区民参加	<p>道路等利用者の意識の向上を図るとともに、潤いある道路環境を創出することを目的に、地域のボランティア団体「すぎなみ美・道路組」（18団体）が道路の清掃及び植栽の手入れ等の美化活動を実施し、区は花苗や清掃用具、園芸用具の支給を行いました。</p> <p>地域団体の活動により、美しい道路環境を保つとともに、区民の道路保全に対する理解を高めることにつながりました。</p>

(2) 区民参加の機会の拡大

	項目名	主な取組内容
1	地域防災力の向上	<p>発災後、地域住民が迅速かつ円滑に震災救援所を開設し運営できるように、震災救援所運営管理標準マニュアルを見直し、各震災救援所運営連絡会にマニュアルづくりを依頼しました。また、震災救援所や防災リーダー養成講座などにおいてHUG（避難所運営ゲーム）訓練を実施しました。</p> <p>新たに西荻窪駅周辺滞留者対策連絡会を設置するとともに、既に設置している荻窪駅周辺を対象として商店街、町会、交通事業者などが参加して大地震を想定した訓練を実施しました。</p>
2	区民の参加による健康づくり	<p>地域自主グループ及び区で養成した「健康づくりリーダー」との協働により、女性の健康イベントやすぎなみフェスタ等で普及啓発活動を実施しました。また、杉並区歯科医師会等の関係団体の協力を得て、「よい歯ファミリーフェスティバル」を実施しました。</p>

3	まちづくり条例に基づくまちづくりの推進	<p>荻窪駅周辺では、地域住民が主体となった「荻窪まちづくり会議」への運営等の支援を通じ、地域発意によるまちの将来像として「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」が取りまとめられ、区に提案されました。</p> <p>西武新宿線沿線では、各駅のまちづくり協議会から提案された「まちづくり構想」を踏まえ、「西武新宿線沿線各駅周辺地区まちづくり方針」を策定しました。</p>
4	省エネルギー及び創エネルギーの普及・推進	<p>NPO団体やエネルギー事業者との協働により、それぞれの専門性を活かした省エネ相談窓口（計26回）を開設し、省エネに関するアドバイスをを行いました。また、区民向けのスマートコミュニティ普及に関する講演会や省エネ住宅見学会、太陽光発電所情報交換会・パネル展を開催しました。</p>
5	区民等の参加による学校運営	<p>地域運営学校の指定が全小中学校の半数へと拡がり、区民等の学校運営への参画の機会が拡充されました。</p> <p>学校支援本部設置10年の節目に当たり開催した「すぎなみ教育シンポジウム」や、各本部による多様な教育活動の取組を紹介した「学校支援本部ってなんだろうBOOK」の作成・配布等を通して、学校支援活動が多く地域人材の参加を得てより充実したものとなるよう取り組みました。</p>

方針2 地域人材の育成と地域活動環境の充実に向けた支援

	項目名	主な取組内容
1	男女平等推進センター啓発講座の実施	<p>区内女性団体等の企画・運営により男女共同参画に関する講座を様々なテーマにより5講座開催し、336人の参加者がありました。実施団体として、区内任意団体およびNPO法人のほか、新たに株式会社を加えたことにより、新しい分野(就労支援)の講座を実施することができました。</p>
2	地域活性化事業への支援	<p>区内の町会・自治会がより良い地域社会の実現に向けて行う事業に対し、地域活性化事業「まちの絆向上事業」の助成を22団体に行いました。</p>
3	地域区民センター協議会への支援	<p>地域区民センター協議会の活動を支援するため、事業費補助金を交付しました。</p> <p>また、7か所のセンターごとに地域特性を活かし、地域で活動する様々な団体と協働で行う事業を合計で55事業実施するとともに、各センターで地域懇談会を開催しました。</p>

4	すぎなみフェスタの開催	<p>「すぎなみフェスタ 2015」を11月7日・8日に開催し、様々な世代の延べ79,000人の来場者が集いました。また、開催にあたり、131団体の出店と企業・団体等から延べ239件の広告協賛、延べ81件の運営協賛がありました。</p>
5	協働提案制度の実施	<p>平成28年度実施事業として、新規2事業（①空き店舗のデータベースと商店街・創業者のマッチング事業②すぎなみレッドリボンプロジェクト〔若年世代等に向けたHIV等性感染症予防の普及啓発〕）、継続3事業（①すぎなみ戦略的アートプロジェクト②障害者施設ネットワーク基盤の強化③子どもプレーパーク事業）の5事業の事業化を決定しました。</p> <p>平成26・27年度に実施した2事業（①おやこじてんしゃプロジェクト②ごみ減量プロジェクト）については、その事業実績・評価、事業で培ったノウハウを踏まえて、協働事業者であるNPOの自主事業に引き継いだり、区の事業に活かしていくこととしました。</p>
6	NPO等の活動支援	<p>平成27年4月から名称を変更して運営している「すぎなみ協働プラザ」は、交流コーナーの環境整備や情報誌のリニューアルを行い、地域活動団体の交流拠点としての機能を充実しました。</p> <p>平成27年度NPO活動資金助成事業では、10団体に計2,020,000円の助成金を交付し、団体活動を支援しました。</p> <p>11月に開催したNPO支援基金普及イベントでは、多くの来場者が集まり、38団体が各展示ブースで団体の活動内容を発表しました。</p>
7	中央線あるあるプロジェクトの推進	<p>商店街の協力を得た「あるあるプロジェクト」のフラッグの掲出や、民間事業者等が発行する冊子へのロゴの掲載等、様々な取組により、「あるあるプロジェクト」自体の認知度を高める取組を進めるとともに、英語版ウェブサイトやフェイスブックを構築し、外国人スタッフの目線による記事掲載等、様々な情報発信を行いました。また、増加する訪日外国人旅行者の受入環境整備を進めていくため、阿佐谷エリアの飲食店200店舗に英語メニューを作成、配布するなど、市中の多言語化を促進しました。</p> <p>更に、区内アニメ制作会社や商店街等と連携し、街歩き事業「アニメウォーク」を実施し、区外からの集客を図りました。</p>
8	区内農産物の地産地消の推進	<p>生産者、事業者等との協働による「地産地消推進連絡会」において、販路の拡大等について検討しました。</p> <p>平成26年度の「地産地消推進連絡会」における検討内容を踏まえ、農業者個人に焦点をあてた農業情報誌「杉並農人」の創刊や学校給食地元野菜デー年4回の開催に伴う配送支援事業、また、杉並保健所との連携イベントや交流自治体との即売会の同時開催、JR阿佐ヶ谷駅内の産直店「のものマルシェ」への出店等を通じて、販売経路を拡大しました。</p>

9	「都市農地を守ろう！」アグリフェスタの開催	<p>「アグリフェスタ 2015」を10月に世田谷区で開催し、3,000人の来場がありました。主なイベントとして、JA東京中央組合長・世田谷区長・杉並区長の三者による意見交換や杉並・世田谷産の農産物即売会、また、野菜の重さ当てクイズや食育劇、スタンプラリー等を実施しました。</p>
10	すぎなみ地域大学の運営	<p>社会教育センター（「すぎなみ大人塾」事業）や杉並ボランティアセンターと協働した合同の講演会、シンポジウムの開催及び新規講座の開講など、関係機関との協力体制を充実しました。</p> <p>地域活動基礎コース5講座、実践コース20講座、ステップアップコース10講座、講演会3講座の計38講座を開講し、1,316人が受講しました。修了基準を設けている実践コース講座の受講生のうち、実際に地域活動を実践している人の割合は約84.7%となっており、毎年度高い比率を維持しています。</p> <p>平成27年度から地域大学の基本理念について、講座修了生が、自らの学びの成果を実際の地域活動において役立てることを主たる理念とし、地域で活躍する人材の育成への取組を進めました。</p>
11	地域人材を発掘し、育成するための新たな仕組みづくり	<p>すぎなみ地域大学では、地域活動に関する区民の関心のすそ野を広げるため、地域活動団体の活性化に関する講演会やシンポジウム等を実施し、地域の公共的な活動に対する区民の理解を促進し、参加を呼びかけました。</p> <p>地域の公共的な活動を行う町会・自治会を対象に、現在抱えている人材不足等の課題解決のため、コンサルタントによる「町会・自治会加入促進、活動活性化実践講座」を区と杉並区町会連合会との協働で7回実施し、225人が参加しました。</p>
12	災害時要配慮者支援の推進	<p>各震災救援所に配備する災害時要配慮者情報（たすけあいネットワーク登録者台帳）を取り扱える方を増やすため、個人情報保護に関する研修会を開催し、全民生児童委員のほか90人以上の方が受講しました。</p> <p>たすけあいネットワーク登録者の個人避難支援プランの作成について、作成者に民生児童委員のほか介護支援専門員（ケアマネジャー）や障害者相談支援専門員を加えることでプラン作成率の向上を図るとともに、新たに2施設と福祉救援所の設置に関する協定の締結を行いました。</p> <p>以上の取組から、震災救援所運営連絡会委員をはじめとした要配慮者の支援者となる方々に対し、要配慮者支援に関する意識の向上が図られました。</p>
13	ゆうゆう館協働事業の実施	<p>平成27年度は、「いきがい学び」、「ふれあい交流」、「健康づくり」をテーマに企画した協働事業を実施しました。開催回数は10,345回を数え、延べ114,924人の参加があり、平成26年度より回数も参加者数も増加しました。</p> <p>ゆうゆう館を拠点として、協働事業を行うことで、地域人材の活用促進と、地域の活性化に寄与しました。</p>

14	ひとり暮らし高齢者等たすけあいネットワーク(地域の目)事業の実施	<p>平成 27 年度末現在、あんしん協力員 (ボランティア) 580 人、あんしん協力機関 43 団体が登録しています。あんしん協力員・あんしん協力機関による高齢者の緩やかな見守り活動が地域に浸透し、全体の見守り通報件数が年々増加しており、高齢者の状況に応じた重層的な見守り体制が強化されました。</p> <p>また、外出することが少ない高齢者に、社会福祉協議会やゆうゆう館等が実施する高齢者の居場所としてのサロンや、地域の自主グループ活動への参加につなげるための声かけを行い、地域社会からの孤立を予防しました。</p>
15	子ども・子育てメッセの開催	<p>プレ・メッセの開催により、出展団体同士の交流を深め、連携が強化されました。</p> <p>子ども・子育てメッセの開催に向けて、実行委員会を 8 回開催したことで、子育てを応援している地域の団体や N P O 等の意見をメッセの開催内容に反映することができました。</p> <p>3 月に開催した子ども・子育てメッセでは、過去最高となる約 3,200 人の来場者を迎え、乳幼児親子と地域の子育て支援団体等がつながり合うきっかけを作ることができました。</p>
16	地域子育てネットワーク事業の実施	<p>地域子育てネットワーク事業として、各小学校区域で、児童館と関係機関、地域団体等との連携による祭りやもちつきなどの地域伝統行事、キャンプ、防災訓練等を延べ 1,500 回以上実施しました。これにより、世代を超えた地域住民の交流とつながりを促進するとともに、地域全体で子育て家庭をあたたく見守り、支援する気運の醸成を図りました。</p>
17	民間運動施設との協定による生活習慣病予防の推進	<p>民間運動施設 4 事業者と「区民の健康づくり活動に関する協定」を締結し、生活習慣病予防を応援する運動プログラムを 39 回実施し、455 人が参加しました。</p>
18	食育の推進	<p>食育推進ボランティア (登録数 158 人) をはじめ、区内の農家、飲食店、青果店との協働により、地域のイベント等を通じて、野菜の摂取拡大に向けた普及啓発を行いました。また、商店主、飲食店主、青果店主等で構成する食育推進実行委員会が主催する食育シンポジウムでは、「食で育む 心・からだ」をテーマに掲げ、子どものときからの食育の重要性を伝えました。</p>
19	ヘルシーメニュー推奨店事業の実施	<p>食育推進ボランティアとの協働により、527 店舗のヘルシーメニュー推奨店に健康栄養情報の提供を行いました。また、ヘルシーメニュー推奨店が 38 店舗増えました。</p>

20	わがまち一番体操の実施	すぎなみ地域大学で養成した区民のボランティア団体（NPO）が、地域での介護予防を推進するため、わがまち一番体操を 444 回実施し、延べ 9,284 人が参加しました。口コミで仲間を誘ってくるにより、実施回数を追うごとにわがまち一番体操の参加者は増えています。また、介護予防普及啓発イベント（身体能力測定会）への協力も行いました。
21	交通安全啓発キャンペーン等の実施	区内における交通事故発生件数は、1,449 件と前年に比べ 32 件 2.2%減少しました。また、6 月に改正道路交通法が施行され、自転車の安全利用に関心が高まったことから自転車講習会やイベントへの参加者が増加し、自転車の事故関与割合は減少しました。
22	地域教育推進協議会の支援	2 地区（天沼中学校区・高円寺地区）の地域教育推進協議会では、新たに、高校生グループによる地域貢献活動や未就学児を持つ保護者同士の交流等を支援する活動に取り組むなど、子どもの育成や教育に関わる地域活動の充実が図られました。
23	郷土博物館における区民参加による協働展示の企画	戦後 70 年にあたり区が実施した「杉並区戦後 70 年事業」と連携して、区民から提供された資料も活用した協働展示「戦争を語り継ぐ」や、協働提案事業「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」と連携した協働展示など、多様な協働展示を実施しました。

方針3 協働を支える情報発信と、区と区民とのコミュニケーション充実

	項目名	主な取組内容
1	地域活動応援サイト「すぎなみ地域コム」の運営	平成 27 年度には 33 団体の新規利用申込みがあり、利用登録団体数は、平成 27 年度末現在 269 団体となっています。また、年間のアクセス数（ページビュー）は、計 662,494 件で月平均 55,208 件となるなど、多くの方々に地域活動団体の活動状況を発信することができました。
2	すぎなみ学倶楽部の運営	区民参加型のウェブサイトとして、平成 27 年度末現在 61 人の区民ライターが登録し、自由な視点で取材した記事を掲載することにより、様々な杉並の魅力を紹介できました。（ページ数：80 件、コラム数：245 件）

3	<p>すぎなみ子育てラボラトリー(略称「すぎラボ」)による子育て情報の発信</p>	<p>毎月、編集会議で議論を重ね取材・執筆を行ったことで、区内で子育て中のメンバーによる視点を「すぎなみ子育てサイト」の区民参加コンテンツ「すぎラボ」の掲載記事に反映することができました。</p> <p>区内各幼稚園にアンケートを実施し、「すぎラボ」で結果を公表したことによって、保護者が幼稚園を選ぶ際に参考となる情報を提供することができました。</p> <p>区公式ホームページの見直しに併せて、「すぎラボ」の内容やレイアウト等に関して、メンバーで検討し、意見を反映したことで、より見やすく、使いやすいコンテンツにすることができました。</p>
4	<p>ICTを活用した災害情報の収集と発信</p>	<p>平成 27 年 11 月、大規模災害に備えた杉並区の防災地図アプリ「すぎナビ」をリリースしました。</p> <p>災害発生時、区民から直接被害情報の提供を受け、その状況を把握するとともに、最新の被害状況や安全な避難経路等の情報を区民に発信し、共有することにより、二次災害の発生防止につながります。</p>